

# ドイツ文學研究

報告第24号

1978

京都大学教養部ドイツ語研究室

# 目 次

## 伝説と詩作

——リルケ『マリアの生涯』をめぐって——

……………田 口 義 弘 (一)

## 新主体性論争

——詩作の基盤として——

……………内 藤 道 雄 (四)

## Wege und Aporien der >Rezeptionsästhetik<

……………Eberhard Scheiffele (43)

## Valenz 理論における自然言語のパターン化と

その「意味論」について

——特に G. Helbig と W. Bondzio の理論的対立をめぐって——

……………井 口 省 吾 (18)

## Weland—Velent—Vqlundr

——名エヴィーラント伝承の系譜 (II)——

……………石 川 光 庸 (1)

## ドイツ文学研究

報告第24号 (非売品)

編集兼発行者 京都大学教養部ドイツ語研究室

代表者 野村 修

1979年2月10日 印刷 印刷所 中西印刷株式会社  
1979年2月17日 発行 京都市上京区下立売通小川東入ル